

## 自然会話分析のための文字化入力支援及び基本的な 分析項目の自動集計ツールとその使い方

著者	宇佐美 まゆみ, 木林 理恵
雑誌名	日本語学会2009年度秋季大会予稿集
ページ	193-194
発行年	2009-10-04
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1328/00003453/">http://id.nii.ac.jp/1328/00003453/</a>

## 自然会話分析のための文字化入力支援及び基本的な分析項目の自動集計ツールと

### その使い方

宇佐美まゆみ (東京外国語大学大学院 総合国際学研究院)

木林理恵 (日本学生支援機構 非常勤職員)

近年、自然会話をデータとする様々な観点からの研究が増えてきているが、会話の文字起こし作業には膨大な時間と労力がかかる。特に会話を定量的な側面から分析する研究の場合、文字化した会話資料全てに対してコーディングを行い、それらの分析項目を集計して統計処理を行うといった一連の手順を踏むため、細かく正確な作業が求められる。本デモンストレーションでは、このような状況を踏まえて、自然会話の文字化資料作成の効率化を図るとともに、基本的な分析項目の自動集計を行うことによって、定量的な分析を効率的かつ精緻に進めるために作成されたツールを紹介する。また、本ツールを使った研究の例、及び、定量的分析にも適するように設計された自然会話コーパスもあわせて紹介する。

このツールは、「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」(宇佐美 1997: 改訂版最新 2007、以下、BTSJ) に基づいている。宇佐美 (1999) は、対人コミュニケーション研究の方法論として「自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ」を提唱しているが、そのアプローチの目的は、言語使用という相互作用を通して人間関係のあり方やコミュニケーション・ダイナミクスを探ることにあり、プロセスとして、定量的・定性的双方の観点からの分析を必要としている。BTSJ は、このアプローチに適するようなものとして開発された文字化システムである。

本ツールは、具体的には以下のような機能をそなえている。

- 文字化資料に用いる記号を入力フォームから簡単に挿入する

発話内容には、実際に発話された内容だけでなく、発話の重複といった音声の情報や文脈情報なども記す必要がある。これらの情報を示す記号を簡便かつ正確に入力できることは、文字化作業の効率化につながる。

- 発話内容の入力のエラーチェックを行う

エラーチェック機能によって入力ミスを検出する。また、記号の半角・全角を自動的に統一することによって、文字化資料への入力ミスを防ぐ。

- 分析の単位である発話文の通し番号を自動付与する  
複雑な通し番号を、一定のルールに基づき自動付与することによって、文字化資料への入力ミスを防ぐ。例外に対応するときは、手動で付与することも可能である。
- 話者ごとの発話の量、話者交替の頻度といった基本的な会話の情報を算出する
- ひとつの分析項目の頻度と割合を、各項目の総計・話者ごとの総計といったいくつかの観点から算出する  
会話の基本的な情報を自動集計すること、また、ひとつの分析項目を多角的な観点から自動集計することにより、定量的な分析に伴う処理を短時間で正確に行うことができる。

BTSJは「自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ」に適するようなものとして開発されたが、その名の通り「基本的な文字化の原則」である。そのため、BTSJとは異なる方法で文字化された資料も、本ツールを用いて部分的に修正を行うことで、分析項目の自動集計が可能となる。つまり、本ツールによって、既に文字化された資料を定量的な分析に応用することができる。

現在は、まだまだ自然会話を定性的に分析した研究が多い。定量的・定性的双方の観点からの分析を行うことが必要であるが、会話の定量的分析には、文字化・コーディング・集計といった極めて緻密な作業が必要とされ、膨大な時間がかかる。本ツールは、定量的な分析に伴う処理を効率化できるように作成されたものである。このような基本的な作業を短時間で正確に行えるツールの開発は、定性的・定量的分析の双方を含む会話の総合的研究の基礎を支えるものである。個人の研究の労力を格段に節約することは、個々の研究を促進する。それは、自然会話データを扱う研究の活性化を図り、この分野全体の発展にも寄与するものであると考える。

#### 引用文献

- 宇佐美まゆみ(1997)「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) の開発について」『日本人の談話行動の SCRIPT・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作』、文部省科学研究費一般研究 (C) (課題番号 07680312) (研究代表者: 西郡仁朗) 研究成果報告書、12-26.
- 宇佐美まゆみ(1999)「談話の定量的分析: 言語社会心理学的アプローチ」『日本語学』18(11)、40-56.
- 宇佐美まゆみ(2007)「改訂版: 基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成 15-18 年度科学研究費補助金基盤研究 B(2)研究成果報告書 (課題番号 15320064):17-36.